

第4回新生匝瑳戦略会議 会議録（概要版）

開催日時：平成23年4月14日（木）

午後7時00分～9時20分

開催場所：匝瑳市役所議会棟第2委員会室

出席委員：（学識経験者）鎌田元弘、木村乃、渡辺新

（団体推薦者）安藤建子、宇野充紘、萱森孝雄、越川竹晴、

越川八代枝、鈴木和彦、橋場永尚

（一般公募者）大塚榮一、岡田陽子、永野亮太、林暁男、八木幸市

（15人／名簿順）

欠席委員：なし

市出席者：（事務局/企画課）木内課長、大木副主幹、富井副主査（3人）

1 開 会

2 あいさつ

3 議 事

（1）市民病院の経営健全化に関する「委員長提案書」について

委員長から「国保匝瑳市民病院に対する意見書」の項目リストが提示され、自治体病院を取り巻く環境や市民病院の現状、課題などの項目が挙げられた。

意見書（案）については、次回の会議までに作成することとし、内容について委員全員の同意が得られれば、戦略会議の名称で意見書として提出することとなった。

（2）各地のまちづくりの状況について（報告）

いろいろな地域で仕事をされている委員からの報告があり、実際に仕事で関わってきた神奈川県三浦市の「NPO法人みうら映画舎」や鹿児島県与論島の「観光ルネサンス」などを例に、市民全員が「ひとごと」から「自分ごと」へ意識を

変えていかなければならないということが指摘された。以下は主な項目。

- ・会議で集まって知恵を出したとしても、昔ながらの行政では対応できないので、まずは伝統的なお役所体質を改める。
- ・「行政革命」をすべきである。行政革命というのは、例えば採用職員を減らして人件費を削るということだけでなく、職員が少なくなっても動けるような行政体にしていくことまでを考えて、行政の行動や思考原理そのものを抜本的に変えていくこと。
- ・神奈川県三浦市にある「NPO法人みうら映画舎」では、映画やドラマなどのロケ地対応をして利益を得ている。自分の住んでいるまちがテレビに出ることは、地元の人にとって「うれしい」ことである。それが「やる気」となり「自分ごと」となり、自分たちが自分たちのまちをもっと好きになれるような活動に繋がっていく。
- ・同市で運営している「みうら元気屋」は、Jリーグの試合会場で物産販売などを行う屋台のことで、スイカやマグロなどの自分たちが持っている観光資源を活かし、まちの宣伝をしている。サッカーとは直接関係がなくても、その会場に「みうら」という名前が出ることに「うれしさ」を感じ、それがおもしろいことになれば、まちの宣伝を担うこと自体に楽しさを覚え、「自分ごと」になっていく。
- ・「なごみま鮮果」は、同市がもつ都心のアンテナショップで、明治大学と連携して行っている。地元の人たちにとっては、売りたいために自分の商品を置いていくが、結局それがまちの宣伝になるということを体験的に覚えてくると、商品にもより工夫が施されるようになる。市の観光課が行わなくても民間財源だけでまちの宣伝が動いていく。行政の仕事として、こういうしかけ・基盤をつくることが大事である。
- ・鹿児島県与論島にある「与論町観光ルネサンス」の事例では、観光客減少の原因を調査。与論島にしかない生活や風景を求めてきている観光客に対し、一般的なリゾート開発や都市化をしていることから、独自の文化が発揮されず、離島としての魅力がなくなってきている。
- ・市民病院やJ T跡地、旧小学校施設についても、こういうものがあつたらいいなという話ではなく、自分だったらこういうことをしたい、あるいは普段から

やっている活動をもっと広げていきたいなど、主語を「私」にして、話し合いを進めることが大事である。

◆各委員から出された意見等

- ・ 伝統文化の箕づくりは、普段あまり使われない、売れないからという考えではなく、それを使って何かできないかと考えてみる。
- ・ 考えているだけではなく、実際に動き出してみると、何かやろうというきっかけがそこから生まれてくる可能性がある。
- ・ 団体の事務局的な役割まで役所がやっていることが多い。特に補助金の交付申請などは、各団体が責任を持って行き、「自分ごと」として頑張って獲得してもらいたい。
- ・ 「観る」や「する」という時代の観光スタイルから、もっと進んだ「Be」（知的好奇心を刺激する旅）というスタイルに、観光や旅そのものが変化しつつあるので、そういう発想を取り入れるべきでは。

(3) JT跡地、旧小学校施設等の位置付けについて

縮尺1万分の1の地図で各施設の位置を把握し、各施設の現状や位置付けについて事務局から説明を行った。以下は主な項目。

- ・ 旧飯高小学校については、地元の子どもたちが年3回ほど利用しているぐらいで、現状では利活用されていない。
- ・ 旧米倉分校については、地元集落でのアンケート結果をもとに、一部を「つどいの広場」として既に活用している。
- ・ JT跡地については、当初の取得目的である商工観光施設用地として、多目的に使える暫定利用をやっという新しい動きがある。

◆各委員から出された意見等

- ・ どういう利活用が一番楽しいか、自分が経営者だったら何を考えるか、というように「自分ごと」で考えるべきである。
- ・ 商店街の中でも頑張って努力し「自分ごと」として取り組んでいる店舗は、大型店舗とは関係なく生き残っている。職人がもつ「こだわり」や、商品がもつ「独自性」が重要である。
- ・ 松山庭園美術館は、今までの匝瑳市になかったコンセプトである。

- ・市内の銀行へ行く際、非常に交通の便が悪いので、J T跡地に銀行を誘致することも検討してみてはどうか。
- ・ドクターの考えや行動がまず第一であるが、自分ごととしてどのくらい考えてくれるかということで、市民病院の状況はかなり違ってくる。それがクリアできれば、経営形態を変えなくても何とかなるのではないか。
- ・各施設について、委員全員で視察してみるのはいかがでしょうか。実際にこれらの建物を見たときに、また違った見方ができるかもしれない。

(4) その他

◆委員からの情報提供

飯高地区では、飯高檀林跡を中心に自然を活かした取り組みが計画されていて、現在は5月に行われる「ガーデン・オープン」を中心に少しずつ事業を拡大できないかと、地元で検討されている。

◆次回の会議について

各施設については、委員全員で一度現地を視察することになり、次回の会議と同日程で行われることとなった。

4 閉 会